

菊池農業高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標

『生徒が輝き、地域をきらめかせる菊農教育の実践』

「熊本の心」を基本理念とし、夢への架け橋教育プラン、県立学校における児童生徒教育指導の重点、人権教育取組、体育保健課取組、特別支援教育の方向を指針とし、本校の三綱領「向学創造の精神を培う」「敬愛協同の美德を養う」「勤労剛健の気風を興す」の具現化に取組み、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育て、地域と共に活気に満ち溢れた学校創りを目指す。

(1) 目指す生徒象

- ・【 自他を認め合い協同する生徒 】
- ・【 あいさつをする生徒 】
- ・【 夢の実現に向け努力する生徒 】

『基本的生活習慣を身に付け、目標の実現に周囲と協同して取組み、自分の意見や思いをしっかりと伝え、何事にも一生懸命に努力することのできる菊農生！！』

(2) キャッチフレーズ

『菊農には夢やときめきがある！ ～君の夢を見つけ実現しよう！～』

2 本年度の重点目標

(1) 基礎学力向上

- ア 生徒一人ひとりを理解し、授業の工夫・改善と個別指導を徹底（授業のUD化）
- イ 図書館の活用と読書指導の推進による、読む力、表現する力の育成
- ウ 学力向上のための学習支援の実践（授業を工夫し学び直しへの取組）
- エ 教師と生徒が一体となった授業（公開授業の実施、グループ学習等の導入）
- オ 教育の情報化と校務のスリム化による指導時間の確保と徹底
(PCやプロジェクト活用による授業のICT化、HP掲載、プレゼンテーション指導)

(2) 健全な心と身体を育む生徒指導

- ア 生活指導を充実させ、基本的生活習慣を確立することで、生徒の健康・安全教育の推進を図る。
- イ 教育相談体制を充実させ、生徒の心のケアと安心して学校生活を送れる体制づくりに努める。
- ウ 部活動を推進し、生徒の心と身体の鍛錬と活気溢れる学校生活を実現する。
- エ 農業学習、環境保全活動をとおして自然を大切に作る心の育成に努める。
- オ ボランティア活動を推進し、地域社会に貢献する意識を育てる。

(3) 夢の実現

- ア 寮教育をとおして共同する精神を育み、グローバルな視点で物事をとらえ、社会の形成者としての資質を磨く。
- イ 身近に起きる様々な課題に対し、周囲と協同して取組み、解決することのできる生徒の育成に努める。
- ウ 専門教育をとおして経営感覚を磨き、地方活性化に寄与する人材の育成を図る。
- エ キャリア教育の視点に立った系統的な体験学習をとおして、進学・就職へ意識を高め、諦めずに努力する生徒の育成に努める。
- オ 学校農業クラブ活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取組み、地域の活性化と魅力ある学校づくりに努める。
- カ 菊農スクールアクションプランの実現

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目指す生徒像実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が共通認識として実践する。 ・保護者、生徒の学校目標認識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、研修等で常時啓発する。 ・学校HP、生徒総会、育友会総会、広報誌等を通じて啓発を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、重点目標の周知を育友会新聞等で啓発に取り組んだ。生徒は49%の認知であったが、保護者は82%の高い認知であった。職員は、自己評価において学校の教育目標に則り具体的な目標を（上期・下期）立てることにより意識が84%と高まった。生徒へは日頃の学習活動、学校行事等をとおして認知度を上げて行かねばならない。
		自信に満ちた行動力を発揮し、社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、夢を語り、夢の実現に向かって、果敢に挑戦する生徒を育成する。 ・本校における通級指導体制を確立し、全職員が理解し実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上を図る。 ・朝読書の定着を図る。 ・農業の専門性を高める教育の推進を図る。 ・職員研修等をとおして、全職員への周知と共通認識を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上の取組として、SHR前に朝読書を今年度より実施した。成果は確実に表れているようである。何よりも、静かな落ち着いた環境で1日の学校生活をスタートできることにより基礎学力の向上に繋がると考える。 ・今年度より希望生徒を対象に始まった「通級による指導」であるが、十分な成果をあげることができた。しかし、生徒の62%、保護者の42%が「通級による指導」が実施されていることを詳しく知らなかったようだ。生徒、保護者のみならず近隣の小・中学校を含めて周知に努めなければならない。
	学校長を中心とした指導体制のもと学校目標を実現する。	学校目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の充実と各部の連携推進及び学科間の協力体制を促進する。 ・職場の「働き方改革」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に係る職員研修を充実させる（学期に1～2回）。 ・学科・学年主任、各部主事等の融合を図る。 ・学年主任を中心とした学年団（生徒・職員）の結束を強化する。 ・各部署の「働き方改革」について目標を設定し、具現化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前の教育相談、支援を要する生徒や課題を抱える生徒の生徒支援、生徒指導をスムーズに実施するために、新年度の早期に複数回の職員研修、週に1回の委員会の開催、関係者による教科連絡会により、情報の共有を図り継続的な支援ができた。巡回指導員による職員研修等により、「通級による指導」が計画通り実施することができた。 ・週に1回開催する企画会により、学校が抱える喫緊の課題を主任主事が共有し、課題解決に向けた策を講じる機

						<p>会を持つことができた。</p> <p>・生徒の44%, 保護者の20%, 職員の25%が、本校は「働き改革」が進んでいない学校(職場)と回答している。この現状を改善するためにも、職員の意識改革を促すとともに組織を挙げて改革を進めていきたい。</p>
		災害時及び生徒の健康管理等における危機管理体制を構築する。	・緊急時の指示系統や連絡体制, 地域と連携した防災マニュアルの再構築を図る。	・保護者連絡システム(安心安全メール), ホームページ活用等による連絡体制の強化 ・学校運営協議会等での検討を重ね, 最善のものを構築する。	B	<p>・ホームページと「安全・安心メール」システムを活用し, 緊急の連絡(休校)や行事連絡(体育大会の順延)などの確かな情報を迅速に伝達することができた。</p> <p>・2年目となった防災型学校運営協議会の運営もスムーズに行い, 地域と連携した防災訓練を実施することができた。次年度は更に協議会の運営を深化させたい。</p>
		学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	・ホームページ掲載情報をタイムリー(毎週)に更新する。(特に新着情報)	・ホームページのシステムを職員に周知し, 各行事等の情報発信を学科毎に更新する。	B	<p>・教務主任, 情報担当者, 学科主任が中心となり, 学校行事を始めとする学習の様子, 部活動の活躍, 進路決定等の情報発信ができた。旬な情報をタイムリーに発信することが、生徒募集の一因になることを職員が認識しなければならない。スピーディーな更新を努めていきたい。</p>
学 力 向 上	生徒一人ひとりを理解し, 授業の工夫・改善と個別指導の徹底(授業のUD化)	生徒の学習意欲を高め, もっと知りたくなる授業を展開する。	・生徒が楽しく登校し「わかる・できる・もっと知りたくなる」を実感する授業を展開する。 ・授業のUD化に努める。	・生徒による授業評価を実施する。 ・教育環境の工夫, ルールの明確化, 視覚的支援の充実を図る。	B	<p>・生徒の75%が本校職員は分かりやすく興味関心が持てる授業を実施していると答えている。</p> <p>・各教科で授業のUD化を意識した研究授業を行い, 生徒の授業評価を実施した。</p> <p>・通級指導とリンクした授業のUD化が必要であり, 今後の課題として取り組む。また, 掲示教育を進め農業分野のGAP認証制度取得にもつながるよう推進する。今後も継続して職員研修等を実施する。</p>
		習熟度に合わせた授業を展開し, わかる喜びを感じる授業を実践する。	・習熟度別に授業内容を組立て, 「基礎学力」および「いきる力」を身につけさせる。	・欠点保持者及び希望する生徒等に対し, 学びなおしを行う場を設定する。	C	<p>・数学については習熟度別学習を取り入れ, 学びなおしを念頭におき授業を展開した。基礎学力の低い生徒も多く, 各教科においてわかる授業, 興味関心を高める授業展開が引き続き課題である。</p>
	教師と生徒が一体となった授業(公開授業の実施, グループ学習の導入)	生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。	・学科・教科別に研究授業(アクティブラーニングを重視した授業, UD化を意識した授業の展開)による資質向上を図る。	・研究授業週間を設け, 統一したテーマを元に, 各学科, 教科ごとに研究授業を実施し授業改善に生かす。	B	<p>・「授業のUD化」について職員研修を実施後に「授業のUD化」をテーマに各教科において研究授業を実施した。「授業のUD化」のポイントを意識しながら授業に取り組む職員も増えてきている。来年度, アクティブラーニングを重視した研究授業も視野に入れ授業改善を実施する。</p>
			・授業の公開による教師の授業力及び探究心の向上を図る。	・教員相互の授業見学と授業評価を実施する。 ・オープンスクール等を行い, 見学者等に率直な意見を求め, 授業改善に生かす。	B	<p>・1学期に「授業のUD化」, 2学期に「ICTを活用した授業」をテーマに研究授業を行い, 「気づきメモ」を利用し教員同士の意見交換を行うことが出来た。オープンスクールでは, 県外よりの参加者も多く, ホームページの効果を知ることができた。課題として, 地元の中学校や教育関係者に見学していただき意見交換ができる場を増やし授業改善に生かしたい。</p>

キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育推進のため、進路指導力の向上に取り組む。	農業自営者育成を主としたキャリア教育を学年に応じて実践する。	・寮教育、先進農家視察、現場実習等とおして職業意識の高揚を図る。	・教育入寮、研修入寮、農業実習等による体験学習の充実を図る ・現場実習とおして進路意識の高揚を図る。	B	・今年度も、卒業生や地域の方々の協力により、現場実習、先進地農業研修等の体験学習の充実を図り、職業観を育成することができた。生徒は農業や農業関連産業への就職や農学部を視野に入れた進学を意識し、実際に進路決定した者もいた。
		キャリア教育の充実に向けた職員の指導力向上を目指す。	・校内研修や農家、企業等の訪問を通じて進路指導力の向上を図る。	・進路情報及び企業訪問等による企業情報の共有化と、指導の統一を図る研修を学年会職員研修の中で行う。	A	・今年度配置された、就職支援担当職員および3学年職員を中心とした企業訪問を積極的に実施し、関係職員で情報を共有することができた。進路部会を定期的に行うことで情報を共有し、学年主任をとおして各学年へ情報発信をすることができていた。
	早期の進路目標設定とその達成に向けた進路指導に取り組む。	生徒や保護者の思いを十分に受け止めた進路指導を行う。	・講演会、進路講話等の進路学習とおして、進路目標設定への意識付けを行う。	・進路講話を実施するとともに、校外での進路相談会へも積極的に参加させる。 ・学年毎に定期的に進路希望調査及び個人面談等を実施する。	B	・全学年クラスごとに進路室の利用の仕方等を説明し、求人票も進路室に置いたことで、生徒が進路室に来る機会が増え進路意識の向上に繋がった。 ・今年度も各学年、校外で実施された各種の進路相談会へ参加したが、生徒への事前事後指導が必要である。 ・進路希望調査を2回実施することができた。1,2年に関しては、今後、進路希望に応じて随時個人面談等を実施していく予定である。
		生徒や保護者の思いを十分に受け止めた進路指導を行う。	・3年間を見通した進路指導を実施し、生徒の進路希望100%達成を実現する。	・学校HPを活用し保護者・生徒に対して進路に関する情報提供を行う。 ・面接指導の実施方法を検討、工夫し、より実践的な内容の指導を行う。保護者による進路先訪問を実施する。	A	・学校HPには学科ごとに卒業生の進路状況を掲載した。保護者集会時には進路情報誌を配布するなど情報提供に努めた。 ・全教職員による3年次の面接指導を実施することができた。しかし、クラス間や生徒間で意識の差が大きく、来年度の実施方法を見直す必要がある。 ・3学期に育友会保護者役員による進路先訪問研修を実施することができた。来年度も計画したい。
生徒指導	豊かな心を育む指導の実践に取り組む。	生徒会・農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。	・生徒会・農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア、各種委員会活動の促進を図る。	・生徒企画による各種行事や委員会活動とおした自治活動力の育成を図る。 ・ボランティア活動の活性化を推進する。 ・部活動活性化に努め、加入率向上を図る。	A	・生徒会、農業クラブとも定例会での企画を立案し、自主的に行事運営を行うことができていた。本校の学校行事は、生徒の約70%、保護者の92%、職員の95%が生徒の自信の育成に繋がっているとの評価を得ている。 ・生徒会役員や部活動生などが中心となって地域のボランティアに積極的に参加し、地域から必要とされると共に期待されていた。 ・部活動への加入率が低いことが課題であり、多くの生徒が積極的に参加できるよう工夫する必要がある。
		農業教育における動植物の育成管理をおして豊かな心の醸成を図る。	・同僚との協力及び動植物の育成管理をおして責任感を育成すると共に、他者や周囲に配慮することのできる心の醸成を図る。	・仲間と協力して作業をすることで責任と周囲への思いやりの心を育てる。 ・動植物との触れ合いをおして、命を大切にする豊かな心と、互いに協力、互いを尊重する心を育成する	B	・多くの生徒が農業実習に責任を持って取り組むことができおり、動植物の管理を通して命の大切さや仲間との協調・協同を学んでいた。 ・基本的には心根の優しい生徒が多いが、何気ない言動で他者に嫌な思い、不快な思いをさせることでトラブルとなることもあるため、日々の教育活動やLHRのなかでアサーションやアンガーマネジメントなどソーシャルスキルトレーニングの実施をおして、コミュニケーション能力を高めていく必要がある。

	規範意識を育てると共に安全教育の徹底に取り組む。	<p>基本的な生活習慣の確立と規則やマナーを遵守する意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ち良い挨拶, 制服の着こなし, 時間を守る, 社会人となるための基礎基本を徹底指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校指導や定期的な整容検査の実施により, 整容指導の徹底を図る。 ・整容面 (服装・頭髪) について全体に周知し, 全職員で統一した指導を図る。 ・貴重品袋を活用した盗難防止に努めると共に, 貴重品の自己管理の徹底を啓発する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の約80%, 保護者の87%が基本的な生活習慣は概ね身に付いているとの回答であった。登校指導での毎朝の声かけ, 定期的な整容検査をとおして, 生徒は比較的落ち着いた学校生活を送れている。 ・今年度は整容検査を回実施した。学年を中心に全職員で取り組み, 頭髪等で指導を要する生徒はいるものの, 服装の着こなしは随分と改善された。次年度も継続的に指導を行いたい。 ・上半期は盗難事案が多発したが, 全職員で生徒への呼びかけや保護者への周知, 貴重品袋を活用した指導の徹底により, 下半期はほぼ0件となった。引き続き, 貴重品管理の徹底を呼びかけていきたい。
		<p>交通事故や犯罪等に遭わないために防犯意識の高揚を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルール遵守や自転車盗難等の防犯をはじめとする安全教育指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策として二重ロック点検, 施錠指導や交通安全教育を実施する。 ・交通安全教育として, 外部講師による交通講話を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月21日前後に全職員での一斉登校指導を実施し, その時に交通委員が自転車の二重ロック点検を行っている。二重ロック率も向上し, 生徒の防犯意識を高めることができた。 ・年度末に交通講話を実施する予定である。来年度は年度当初に交通安全教育を実施したい。
人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成に取り組む。	<p>相手の立場や心情を理解することのできる生徒の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を高め, 心豊かな生徒の育成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRをはじめ様々な授業をとおして人権感覚を育む。 ・人権講話や人権講演, 平和登校日など, 機会を捉えて人権の大切さを伝える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の64%, 保護者の84%, 職員の78%が本校の人権教育は概ね充実しており, 相手の立場になって行動できる生徒の育成に繋がっていると回答している。これは昨年度より内容を深めた人権LHRを年間計画通り実施し, 生徒の人権意識を高めることが出来たためと考える。 ・人権教育主任による全校生徒および保護者対象の講話を1学期末に実施し, 人権教育に取り組む本校生の姿を伝えることが出来た。
		<p>指導する職員の人権感覚を豊かにする研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期に配慮を要する生徒等に関する研修を実施することで, 生徒に対する人権感覚を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会を定期的に行い, 共通認識と共通実践を図る。 ・学期に1~2回の生徒理解研修を実施し, 全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し, 共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解研修を2回実施し, 全職員で配慮を要する生徒や, 課題を抱えさせられた生徒の状況把握をすることで生徒理解の一助とすることが出来た。 ・昨年度まで毎週実施していた人権教育推進委員会を不定期としたが, 年2回ほどしか実施出来なかった。 ・配慮を必要とする生徒の増加に伴う中, 職員の共通認識が十分とはいえない状況である。
	<p>命を大切にす心の育成に取り組む。</p>	<p>動植物に関わることで命の大切さを意識し, いじめのない学校づくりに取り組む生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学びの中で命の大切さを知り, 自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を育て命をいただくことで, 生かされていることを実習等の授業で学ぶ。 ・人権委員会を中心に「いじめ撲滅宣言」の読み上げ, クラス掲示を行い, 感謝の心と他者を認める心を意識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や農業実習をとおし, 命の大切さや, 命を育むことの尊さ, 一人ひとりの個性を尊重することの大切さを学ぶことが出来た。 ・全校集会で人権委員長が「いじめ撲滅宣言」を読み上げるとともに, 各クラスに掲示することで, お互いを認める心を意識することが出来た。 ・SNSによるトラブルが何件かあったので, 更なる指導が必要である。

いじめの防止等	命を大切にす、いじめしない、いじめ防止に取り組む生徒の育成に努める。	命の大切さを理解し、命を大切にすることができる生徒の育成に取り組む。	・日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることができる生徒を育てる。	・性教育LHRをはじめ日常の授業、実習で命を育て、命をいただくことで生かされていることを学ぶ。	B	・学年毎に実施することで発展的な性教育を展開することができた。本年度は外部講師による講話を実施することができた。 ・専門教科の授業では、各科で特色ある教育が実施されており、多くの生徒がやりがいを感じている。日々の学習を日常生活における自他の尊厳に繋げられるよう、さらに工夫していきたい。
		いじめ防止に積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	・相手の立場を考え、命を大切に考えることができる生徒の育成を図る。	・LHR等で人権問題を取り上げ、いじめや差別をなくす生徒の育成と正しい言動ができる生徒の指導を行う。 ・日頃から正副担任を中心に個別面談の機会を設けるなど、生徒の日頃の悩みを把握すると共に ・いじめの未然防止、早期の発見に努める。	B	・年7回の人権教育LHRを計画的に実施することができた。また、全校集会や学校行事など、様々な場面で人権意識の向上に努めており、生徒の人権感覚を高めることができた。 ・各学期で実施する心のアンケート、それに基づいた個人面談を実施し、いじめの防止と早期解決に向けた取り組みを組織的に行うことができた。結果として、生徒の67%、保護者の84%、職員の93%が本校は体罰やいじめの防止をはじめ、人権教育の姿勢を基本に生徒への対応が概ね行われているとの評価を受けた。
専門教育	地域と連携した農業教育の推進に取り組む。	地域と連携した農業教育の推進に取り組み、農業経営者を育成に力を注ぐ。	・就農教育の推進と地域に開かれた農場の展開に努める。	・農場を地域に開かれた学校の拠点とし、農業の新しい技術や情報を校外に積極的に発信していく。	B	・くまもと県版GAP認証取得に向けて校内一丸となり活動を展開し穀物分野で取得することができた。モデル農場として地元の農家、行政などの視察も受け入れた。 ・環境循環型農業への取り組みを授業にも取り入れ、環境教育も充実させていきたい。
		農業教育により自信と誇りを持った農業経営者と関連産業従事者を育成する。	・農場を生徒の学習発表の場と位置づけ、農業教育に対する自信と誇りを育む。	・学習成果を積極的に発表し、身につけた専門性を将来活かす進路指導を実践していく。	A	・大学や研究機関と連携し、地域のテーマについて研究を進め、様々な場面で成果を発表した。 ・専門性を身に着けた多くの生徒が農業関係の進路を選択し合格を勝ち取った。国立大学の農学部へ3名が合格したことは、1・2年生への刺激となったようだ。
環境教育	環境保全活動や環境問題に積極的に取り組む。	学校版環境ISOに取り組むと共に、農業をとおして環境整備に意欲的に取り組む態度を育成する。	・環境にやさしい農業を実践し、環境保全や環境問題への関心を高め、意識的に取り組む態度を育てる。	・学校版ISOの認定校として、校内外のクリーン活動を実施する。 ・地域を含めた花いっぱい運動を展開する。	A	・ISOの宣言項目を教室や職員室へ掲示し、毎学期、生徒職員で取組チェックを行った。その結果、学期を追うごとに取組の効果が向上した。 ・花いっぱい運動は、農業クラブを中心に全学科で取り組み、近隣中学校との共同作業も実施できた。
		美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取り組む。	・環境美化活動を実践し、美しい環境の中で豊かな感性を育む。	・美化コンクールを実施する。 ・美化委員を中心に学校周辺の美化活動を年5～6回行う。 ・ゴミの分別運動を実施する。	B	・毎学期、校内外のクリーン活動と美化コンクールを実施したことで、教室や野外の環境美化への意識を向上することができた。 ・今後はプラスチックゴミの分別徹底について、取組を充実させる必要がある。

保護者との連携	育友会との積極的な連携・協力に取組む。	円滑な学校運営のために情報提供に努める。	・保護者へ学校行事や生徒の様子等の情報提供に努め、本校への理解と協力を得る。	・年4回の育友会会報作成等に協力し、菊農のPRに努める。 ・HPや安全安心メールを活用して育友会活動の状況や、学校行事の周知徹底に努める。	B	・年3回育友会会報を発行し、生徒の頑張りや育友会活動を紹介し、菊農のPRに努めた。 ・HPで育友会のボランティア活動や各種研究大会、ロードレース大会の豚汁づくりなど育友会活動を紹介し菊農のPRに努めた。 ・HP、安全安心メールの活用をもっと充実させる。
		P T A 活動のさらなる活性化を図る。	・総会や学校行事への保護者の出席率向上を図る。 ・ミニバレーや各種研修会など運営を工夫しながら、楽しい育友会活動を目指す。	・早めの情報提供と、欠席者については、生徒を通じて資料を配布し、情報の共有化を図る。 ・保護者が参加しやすいよう開催曜日や時間帯を工夫し、多くの意見を取り入れて活発化を目指す。	B	・執行部会や運営委員会を開催し、多くの保護者から意見を集め、ミニバレーや環境美化作業など天候も含め配慮した日程の設定など、できるだけ参加しやすいように配慮した。 ・総会や保護者会の出席率がまだ低いので、情報提供などの工夫を行い、向上を図る。また、魅力ある保護者会で保護者が参加したくなる工夫をしていく。
地域との連携	学校運営協議会をとおり、地域と連携協力体制の確立	自主的に学び、考え、行動できる生徒の育成に努める。	・地域の活動をとおりボランティア活動に参加するとともに、地域住民とのコミュニケーションを深める。 ・防災教育の3原則である知識、技術、心を軸とし防災意識を高める。	・地域の美化作業等に積極的に参加する。 ・学校行事をHP、広報誌等で情報発信し、地域住民の来校のきっかけとする。 ・教科、集会等で各災害の発生メカニズムと対応策を理解する。	A	・全校生徒より有志を募り、地域のイベントスタッフ等のボランティア活動に参加できた。来年度も積極的な参加を生徒に促していきたい。 ・今年度は授業中に地震発生時の安全行動（シェイクアウト）訓練を複数回実施した。生徒の意識も高まり意義ある訓練となった。来年度も更に充実させたい。
		災害時の連携体制や防災システムの構築に取り組む。	・防災型コミュニティスクールを構築する。	・防災マニュアルの共有、合同防災訓練を計画し実施する。 ・地域と協同した防災訓練を実施する。	B	・地域、行政機関からの意見・アドバイスをいただき、防災教育に対する連携を強化することができた。 ・防災関係の職員研修を実施し、災害発生時、避難場所、避難所になった場合の学校の役割などの説明を行った。 ・地域合同での防災避難訓練の実施ができた。避難場所への円滑な誘導など連携の確認が出来た。来年度も更に充実させたい。

4 学校関係者評価

- 中学生が進路選択に本校(農業高校)を入れにくい状況があるのではないかと出口を詳しく中学生に伝えるべきである。
- 農家のプロが本校を訪問し、アドバイスができないものか？先生方のスキルアップに活用して貰いたい。
- 農業法人の給与形態について、本校生や中学生に伝える機会を持ってもらいたい。
- 農業部の先生方の生産技術レベルを知りたい。農家で技術的なことを学ぶ機会があっても良いのではないだろうか？
- 朝読書を取り入れたことは評価できる。是非とも続けてもらいたい。
- 教育相談の体制が整っているとの評判を聞いている。多様な生徒を社会に送り出すためにも、先生方のスキルアップを更に願いたい。
- 中学校(地域)からの良い評価をもらうためには、先生方それぞれが何をすべきか？先生方が課題を見つけ克服する努力をしていけば、自ずと評価は付いてくると考える。
- 地域の方々への積極的な挨拶(職員・生徒)はやはり大事である。
- 体育大会、菊農フェスタ等の学校行事を地域は楽しみにしている。【地域の学校】として地域から愛される学校で有り続けてもらいたい。
- 学校評価か保護者の評価が非常に高いことが窺える。正直、驚いている。
- 学校評価に関して、生徒と保護者の評価にギャップが見られる。先生方は生徒の評価を真摯に受け止め、改善すべき点は実行に移すべきである。
- 地域の方から「菊農に進学したいけど・・・」、地元大手職員会社から「菊農生を採用したいけど・・・」等の話を聞いたとき、嬉しさが込み上げてきた。
- 英語力を高める教育に努めていただきたい。「通級による指導」に関しては、積極的に地域そして近隣の小中学校に周知して貰いたい。
- 先生方が仕事を抱えすぎているのが現実ではないだろうか？学校での「働き方改革」を推進するには、思い切って発想の転換をしなければいけないのではないかと？

- 進路指導は大変だと思うが、菊農は出口が非常に明るい気がしている。保護者、地域としては大変有り難いことである。
- 遅刻者が多いことは課題である。原因を追及し遅刻減少に努めていただきたい。
- 菊池市三校フェスティバルの評価は高く、中学生に効果的な発信ができています。また、中学校と菊農生の交流は中学生に安心感を与えているようだ。「おはようございます」と素直に言える生徒の育成が、中高生の共通した課題と言える。

5 総合評価

(1) 基礎学力向上に向けて

特別支援学校より講師を招き、「学びのUD化」についての職員研修を行い、全職員が「私のユニバーサルデザイン」として目標を掲げ、生徒たちの目にも入り、職員のUD化への意識も高まるよう校内に掲示し、「学びのUD化」のポイントを確認したうえで6月に公開授業を実施した。9月には新しく導入されたICT機器を活用した公開授業を実施した。生徒の反応は良く、分かりやすかったとの声が聞かれた。「ICTの授業活用」については、準備に時間がかかる他、利用予約や返却の問題機器の使用方法が不慣れ等の理由で敬遠されている状況もある。そこで、「ICTを授業に活用する際の教材の共有化」、多くの職員がICT機器を手軽に活用できるような「システムの構築」及び「ICT機器の操作」を構築することで、教師の負担は軽減し、生徒の授業への興味関心は高まるものと思われる。

先生の授業は分かりやすく興味関心が持てるとの評価を75%から85%に、私の授業は生徒の興味関心を引くものであるとの自己評価を90%から100%にUPできるように本校職員の資質の向上にも期待したい。

朝読書は年間をととして時間を確保し運用することができた。生徒のアンケートでは、以前よりも落ち着いた雰囲気ですべて授業に取り組むことができているという答えも多く、成果は上がっていると感じている。

(2) 健全な心と身体を育む生徒指導

月1回の全校集会では、職員による講話、委員会や部活動等の活動・成果報告を行う時間を設け、学校全体の活性化に繋がる一助となった。年7回の整容検査は学年の担当職員が実施し、指導に対する理解が職員・生徒ともに深まったことで、生徒の整容面の落ち着きに繋がり、生徒の80%、保護者の87%が基本的な生活習慣が身に付いていると評価している。

上期は校内における盗難が問題となったが、クラス毎の貴重品袋使用による管理の徹底、全職員による生徒への呼びかけや保護者への周知をととして下半期はほぼ解消した。本校でも、SNS上のやりとりが原因であったり、トラブルがSNS上に発展したりする生徒間の問題が近年増加しているが、その都度、生徒指導部、学年・科、担任が連携を取りながら問題の解決に取り組む解決に導くことができた。遅刻者に対する意識付けと改善を目的として、登校指導時に担当職員による遅刻者の確認及び入室許可証(HRや授業の途中で入室する遅刻生徒に対して)の記入と提出を求めているが、このことは生徒の動静を確実に把握することにも繋がっている。今年度は遅刻指導の内容を見直し、職員間の連携を図ることでさらに遅刻の減少をめざしたが、年度途中の変更で職員・生徒ともに戸惑いがあった部分も否めず、大きな成果を得ることはできなかった。

交通関係では、年度当初の通学方法別集会、月1回の一斉登校指導および交通委員会による自転車の二重ロック点検をととして、生徒の交通安全や交通マナー・盗難防止の向上に努めた。さらに、原付通学生に対しては、学期に1回実技・法令講習会を実施してきたが、事故・違反とともに前年度と同程度の件数であり、飛躍的な減少には繋がらなかった。

生徒の実態を早期に把握し、高校生活への適応を少しでもスムーズなものとするため、希望者に対して入学前相談会を実施し好評であった。4月・5月の全職員による生徒理解研修、生徒の状況や担任からの要望によるクラス担当者会議、関係者による生徒理解・特別支援教育推進委員会等において、「こうすればうまくいった」といった互いの成功例等を持ち寄り共有することで、生徒支援に繋げ、生徒指導に活かすことができた。また、夏期休業中には1年生全クラスで、担任・特別支援教育コーディネーター・教科担当者による情報共有の会を開き、本校における途切れのない支援のための手立てや目標を協議し、個別の教育支援計画・個別の指導計画の策定を行う事ができた。その際、特別支援教育指導力向上研修の未受講者や、支援計画の作成法が分からないという職員用に、記入の目的や記入例・活用法などをまとめた資料を作成して配付し資質の向上を図った。校内で生徒支援に手を尽くすのは勿論ながら、より効果的で手厚い支援のためにSSWの申請や特別支援学校巡回相談などの十分に活用し効果を得られた。

(3) 夢の実現

寮教育においては、舎監3名共通理解のもと、放課後生徒の生活状況などの引き継ぎを行い、寮生・研修生のほとんどは日課を守り基本的な生活週間で寮生活を送ることができた。毎週金曜日に整理整頓ができているか美化コンクールを行い学期毎に全体で表彰を行ったが、個人や各部屋で積極的に取り組む生徒が増えて来た。この一年、男女の寮長中心に寮の活動を行ってきたが、女子は1年をととして活動を行う事ができた。

生徒の70%、保護者の約90%が本校の進路指導に満足している結果であった。就職においては、キャリアサポーターを中心とした3学年での企業訪問を実施し、卒業生の状況を把握するとともに、新規企業開拓も行うことができた。今年度から配置された就労支援担当教員が、担任と連携して自己表現を苦手とする生徒への面談を幾度となく実施し

,内定を勝ち取ることができた。また,全学年全クラスへ進路室利用の説明及び求人票を進路室に配置するなど,生徒が利用しやすい進路室づくりに努めた。結果として,進路室において求人票を見ながら生徒と話を進めることができる等より良いマッチングに繋がった。

進学指導では,外部講師を招いての小論文講座の実施,週2回の農場センターでの小論文等の学習会(農業部企画)を実施し,多数の4年制大学への合格に繋がった。県立農業大学校へ8名進学(熊本県立農大校5名),国立大学農学部への進学者3名(鹿児島大学,宮崎大学,信州大学【過卒】),4年制私立大学12名をはじめ32.4%が上級学校へ進学することとなった。

就職では,進路指導部を中心に組織的に適切な指導を進め,学校紹介での内定率は100%となった。農業経営者を目指した進学後就農予定15名,即就農7名(雇用就農含)となった。

今年度も熊本県農業関係高校海外生徒派遣・火の国の翼(台湾)に3名,熊本県高等学校海外インターンシップ(オランダ・ドイツ)に1名,未来の畜産女子育成プロジェクト(ニュージーランド)に1名,FFT派遣(タイ)に3名の生徒が参加し,グローバルな視点で物事をとらえ資質を磨いている生徒の姿が見られたことは大変喜ばしいことであった。また,全学科,農業クラブ,馬術部,太鼓部が菊池市をはじめ多くの自治体および団体と積極的な交流を深め,本校から多くの情報を発信し魅力ある学校づくりに努めてくれた。また,学科を中心に専門教育の充実のため,現場実習や先進地視察を更に充実させることができた。このような取り組みも含めて,生徒77%,保護者94%が本校に入学して良かった,入学させて良かったとの結果であった。

6 次年度への課題・改善方策

○学力向上は,授業評価アンケート結果から,日頃の授業の工夫と積み重ねが重要である。支援が必要な生徒など多様な生徒が入学する中,授業のUD化を踏まえた「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開を更に心がけ確かな学力の定着を実施したい。考査前学習会等で「学びなおし」の指導も含め,「わかったという達成感」と「学ぶ楽しさ」を育成し,『生徒が主体的に学ぶ』授業の展開を全ての教科で実践し,社会を生き抜く力を育てる教育の実践に取り組んでいく。そのために,授業研究に取り組み,教師の指導力向上に努めるとともに,オープンスクールや公開授業の充実を図りたい。

○生徒の支援にあたり,自己実現につなげていくために,作成した支援計画を必要に応じて更新しながら活用していくことが課題である。「学びのUD化」について,全職員が「私のユニバーサルデザイン」として目標を掲げ,生徒たちの目にも入り,職員のUD化への意識も高まるよう校内に掲示している。課題としては,職員の多くがUD化への理解を深め,授業の中に工夫が見られるようになった一方で,従来からの指導方法を変えることに抵抗がある職員がいることが今後の課題である。

○生徒の夢の実現のために,いろいろな取り組みを行ってはいるが,それが一本につながっていないのが(進路指導部,学年,学科,クラス)現状である。年間を見通した取組の改善を行っていききたい。

○いじめ防止については,職員研修や学年会,委員会等をとおして資質を高め,情報を共有し全職員がアンテナ高く広く張り巡らせ,いじめの事前防止や早期解消を目指して取り組んでいきたい。

○人権教育の推進では,相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を目指し,人権LHR・講演会を更に充実させたい。

○盗難防止に向けて,貴重品袋を活用した管理の徹底,職員による生徒への呼びかけや保護者への周知を今後も続けて行かねばならない。

○情報モラル教育の充実は喫緊の課題であるだけに,職員の指導力の向上,関係機関との連携,保護者への協力を中心に次年度は進めていきたい。

○次年度の遅刻指導の実施にあたり,再度全職員で指導方法をしっかり確認し,効果が出るように職員の連携強化と保護者への協力をお願いしたい。

○原付通学生に対する講習会では,前例の事故や違反について生徒自らが原因を検証する内容を盛り込み,事故違反の減少に繋がりたい。

○オープンスクールが馬術の大会と今年度重なったため,運営等で煩雑になったこともあり,来年度は実施時期を検討したい。また,体験入学については,菊池地域管内の中学校の1学期終業式が異なっていたこともあり,今年度2回実施しなければならなかった。中学校の行事も確認し計画を考えていきたい。

○生徒募集に関しては,夏休み期間を利用し県内の全公立中学校にパンフレット等を持参し,訪問することができた。次年度もこのような地道な活動を続けていきたい。

○本校のホームページの運用については,まだ思うようにできていない。また,ホームページのシステムがバージョンアップしたため,その対策を現在検討している。タイムリーな情報を随時載せることができるようこれからも努めていきたい。

○寮内における貴重品の管理と帰省届の提出,帰省から帰寮までの管理,インフルエンザ等の感染症を防止する衛生管理を徹底する。また,生徒の日常生活の改善に関して計画的な指導を実施していききたい。

○地域との連携では,防災に関する関係機関との実質的な連携を深め,実働できる体制を整備しなければならない。また,「開かれた学校づくり」を推進するために,菊池市をはじめ関係自治体との連携を更に強化し(特に中高連携),「地域に必要とされる学校づくり」を進めていきたい。

○本校の「働き方改革」を推進するために,職場文化を検証し,スクラップも意識しながら業務を進めていきたい。